

運動場に 熱中症対策の設備を

答 状況に応じて対応できている



大城 重太 議員



問 近年の異常な高温多湿は災害レベルであり、熱中症はもはや自然災害と言っても過言ではない。教育現場では特に屋外での体育の授業やスポーツ活動での熱中症が懸念される。運動場周辺に日陰となるオーニングやミストシャワー、散水設備を整える必要があると思うがどうか。

教育長 熱中症対策としてこまめな休憩と水分補給を行い、休憩は木陰やピロティ、テントなどを活用している。また、保健の授業や体育館での授業に変更するなど適宜対応している。

問 運動場では気温や湿度に加え、太陽と地面からの熱をもろに受ける。特に子どもは地面と顔との距離が近いため体感温度は高く感じやすく、熱中症のリスクが高まる。昨今の状況からも常設する設備だと思いがどうか。

学校教育課長 今現在は、体育の時間や外で活動する時間は

テントを使ったり木陰を利用するなど、状況に応じて対応できている。

運動場に避雷針の設置を

問 運動場では落雷による事故も心配である。校舎には避雷針が設置されているが、運動場には避雷針が設置されておらず無防備になっているか。

教育長 校舎に設置されている避雷針は、校舎の機械設備等の損傷を回避するために設置されており運動場はカバーされていない。



落雷を抑制するPDCE避雷針

問 人の判断による避難だけでは危険は回避できないので、物理的な対策も必要だと

思う。建物の保護という目的だけではなく、児童生徒の安全安心が最優先されるべき学校なので、人命の保護という目的で設置を検討してはどうか。

教育総務課長 避雷針を設置しても100%リスクを回避できるものではない。避雷針を増設することで生じる安心感から若干危機感が薄れるような懸念事項がある。

防災用ヘルメットの配布を

問 小学1年生の入学時に防災用ヘルメットを配布し、防災意識を高めるとともに実用性の高い防災アイテムを常備する環境を整えてはどうか。

教育長 学校現場では児童生徒の防災意識を高めるため避難訓練を実施している。常備すべき実用性の高い防災アイテムは調査研究していく。